

泉岳寺、増上寺、そして愛宕神社 (2019/10/29)

C班 石谷、小村

朝からあいにくの雨。9時30分に西部池袋駅に10名が集合し、本日の予定先、泉岳寺、増上寺、そして愛宕神社に向けて出発しました。先ずはJR池袋駅から山手線五反田駅で都営浅草線に乗り換えて泉岳寺駅に行きます。

泉岳寺

泉岳寺は曹洞宗の寺院です。赤穂浪士と浅野長矩（あさのながのり）が葬られていることでも知られています。義士討入り三百年を記念して新たに建設された赤穂義士記念館（平成13年開館）があります。赤穂義士の已むに已まれぬ（やむにやまれぬ）心情を伝承することに資しているという。（赤穂事件については、末尾の付録を参照）



泉岳寺の山門





後ろは本堂

赤穂義士記念館



義士木像館



義

大人：500円

萬松山 泉岳寺



大石内蔵助 良雄の墓に拝む：後ろの石塔の墓は浅野内匠頭（あさのたくみのかみ）

泉岳寺を出て近くのレストランでランチを取る。そして、都営浅草線の泉岳寺駅から大門駅に移動する。

増上寺

大門駅からは徒歩 2-3 分で赤い威風堂々とした姿の三解脱門（さんげだつもん）に到着します。江戸初期の元和 8 年（1622）に建立され、第二次世界大戦の戦禍を免れた唯一の建造物だそうです。三解脱門とは三つの煩惱「むさぼり、いかり、おろかさ」を解脱する門のことだとか。増上寺は浄土宗の七大本山のひとつで、東京タワーのふもとにあります。また、徳川家の菩提寺です。徳川将軍 15 代のうち、6 人が葬られています。大殿（本堂）地下一階にある宝物展示室は、定期休館日（火曜日）に当たり、入館できません。お念仏と太鼓を聴きながら、しばしの休憩を取りました。先週 10 月 23 日（水）には英国のチャールズ皇太子殿下が増上寺をご訪問されたそうです。



三解脱門（さんげだつもん）
[10/9 の下見時に撮影]



大殿（本堂）と東京タワーをバックにして



大殿（本堂）



東京タワー（高さ 333m）

愛宕神社

愛宕神社は本日のオプション企画でしたが、全員で行くことになりました。雨の止まない中、立派な東京プリンスホテルの前の道を進みました。KOさんの説明がありました。1964年10月に開催された東京オリンピックに合わせて同年9月に開業されたのだとか。徒歩約15分で愛宕神社の「出世の石段」に到着。

愛宕神社は、徳川家康公が江戸に幕府を開くにあたり、慶長8年（1603年）に江戸の防火・防災の守り神として将軍の命を受け創建されたそうです。「出世の石段」は約45度の傾斜で、一段が約20センチ以上、さらに階段は86段もあります。また、踊り場もないので、一度登り始めたら、上りきるしかありません。雨の中、傘をさして登りました。

『出世の石段』と言われている由縁

(from 東京トリップ 出世の石段 (愛宕神社))

<https://tokyo-trip.org/spot/visiting/tk0302/>

1634（寛永11）年、3代将軍、徳川家光が将軍家菩提寺の芝・増上寺に参詣の帰路、愛宕山に咲く梅に気づき、「誰か、馬であの梅を取って参れ！」と命じます。居合わせた多くの武将が怯（ひる）むなか、四国・丸亀藩の曲垣平九郎（まがきへいくろう）が馬で急な石段を上り降りし、家光から「日本一の馬術の名人」と讃えられました。その名声が知れ渡ったことから「出世の石段」呼ばれるように。

その後、実際に馬で駆け上がった成功者が今日までに3人います。明治15年(1882年)に曲馬師・石川清馬が、大正14年(1925年)には陸軍参謀本部所属の岩木利夫(参謀本部馬丁)が1分で駆け上がっています。石段は下りのほうが困難で、岩木さん軍馬も下りは45分を要したそうです。昭和57年(1982年)にはスタントマンの渡辺隆馬が、日本テレビの特番『史実に挑戦』のロケで、安全網や命綱、保護帽などの安全策を施した上で何と32秒で駆け上がったそうです。

愛宕神社の隣に「NHK 放送博物館(今回は時間不足で企画に組み込めず)」があります。その前身である東京放送局(JOAK; 1925年3月仮放送開始、7月本放送開始)が、上記大正14年(1925年)11月の岩木さん軍馬の活躍模様を中継(日本初の生中継とされる)したそうです。



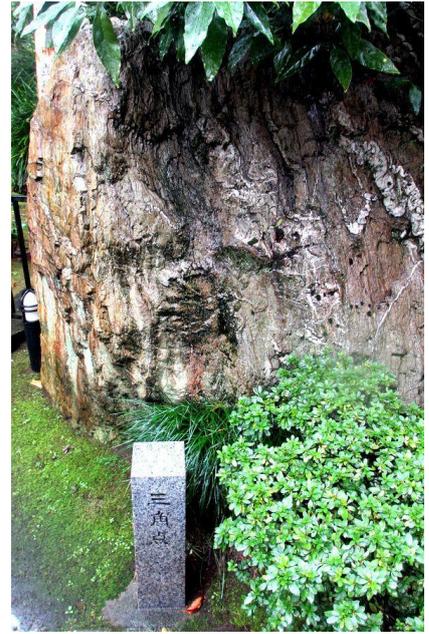
「出世の石段」傘をさして登る



「出世の石段」隣にある少し緩やかで踊り場もある「女坂」を降りた



愛宕神社



境内にある三等三角点

また、愛宕神社境内には、標高 25.7m の三等三角点があります。東京 23 区内において、「自然地形でなかつ山と呼ばれるものの中では最高」ということです。[ちなみに、23 区西半部の大半は標高 30m を超える台地（武蔵野台地）であり、最高地点は練馬区南西端の約 58m です。人造の山（築山）の最高峰は新宿区の戸山公園内にある箱根山（44.6m）です。]

出世の石段（from 西新橋通信 <http://www.diaprc.co.jp/nishi/isidan.html>）

江戸から明治に移ろうとする慶応 4 年（1868）、新政府軍による 3 月 15 日の江戸城総攻撃を間近に控えたある日、交渉に当たっていた幕府側の勝海舟と、新政府軍側の西郷隆盛はともにこの愛宕山に登った。そして、眼下に広がる江戸の町を見渡し「この町を戦火で焼失させてはいけない」との思いを共にして、4 月 11 日の江戸城無血開城につながったというのである。愛宕山は、当時の江戸では一番見晴らしのきくところでした。現在は、高いビルで埋まっており、眺望は全くききません。

帰路は、地下鉄日比谷線神谷町まで徒歩（約 7 分）で行き乗車、そして霞ヶ関駅で丸の内線に乗り換え池袋駅に戻りました。

今日は雨の中、仲間と共に良く歩いたものです。史跡的好奇心が今なお失われていないことにも気づき、仲間と観賞し合ったのでした。その史跡名所は、懐かしい「鉄道唱歌」に出てくる「愛宕（あたご）の山」や「泉岳寺」でした。また、増上寺もよく浮世絵の題材に取り上げられた名所でした。参加者の皆さん、雨の中、有難うございました。

鉄道唱歌（東海道篇）

1. 汽笛一声（いっせい）新橋を
はや我（わが）汽車は離れたり
愛宕（あたご）の山に入りのこる
月を旅路の友として
2. 右は高輪（たかなわ）泉岳寺
四十七士の墓どころ
雪は消えても消えのこる
名は千載（せんざい）の後（のち）までも



歌川広重『東都名所 芝増上寺』：東海道側から眺めた三解脱門
(3 ページの写真「三解脱門」はこの建造物です。松林も現存していました。)

付録：赤穂事件（あこうじけん）

[from <https://kotobank.jp/word/赤穂事件-24918>]

元禄 15 (1702) 年 12 月 14 日夜半, 旧赤穂藩士大石内蔵助(おおいし くのすけ) 良雄(よしお/よしたか) 以下 46 人が, 江戸本所松坂町の吉良上野介(きらこうすけのすけ) 義央(よしひさ/よしなか) の邸内に乱入, 義央の首級(しゅきゅう) をあげて, 旧藩主浅野内匠頭(あさのたくみのかみ) 長矩(ながのり) の仇をはらした事件。

江戸幕府は毎年, 朝廷に対し年頭に礼使を送り, 朝廷はこれに対する答礼の勅使(ちよくし) を 3 月に江戸に差遣(さけん) することが例であった。元禄 14 年の勅使下向の際の幕府供応馳走役の一人として赤穂藩主浅野長矩が命じられ, 勅使供応に関する礼式, 作法などの指導は例年どおり高家(こうけ) 吉良義央があたったが, その不親切な取扱いに立腹した浅野長矩は, 同年 3 月 14 日, 勅使到着を目前にして江戸城中において吉良義央に刃傷に及び, 即日田村右京大夫邸にて切腹を命じられ, その所領も没収された。

赤穂藩士は, すべて牢人(浪人) となって離散したが, 旧城代家老大石良雄を中心とする旧藩士の一部は, 亡主浅野長矩の怨敵を討つべく密約を結び, 1 年有余の待機ののちに吉良義央を襲うという挙に出た。吉良義央の首級をあげ復讐をとげた浪士らは, 江戸芝高輪泉岳寺の旧主の墓前にこれを報告したが, のちただちに細川, 松平, 毛利, 水野の 4 家に身柄を預けられた。浪士らの処分については, 幕閣において容易に決らなかったのみならず, その挙を忠義とするか, 罪とするかをめぐって, 上は将軍から下は庶民までをも巻き込んで, 江戸時代最大の論争となった。

林大学頭信篤(はやしだいがくのとう のぶあつ) や室鳩巢(むろ きゅうそう) らは復讐を義とする考えから彼らを義人とみて立論し, さらに伊勢貞丈もこれを義とする人情論を展開したが, 一方佐藤直方らはこの論に反対するなど, 当代一流の学者の意見も甲論乙駁の体であった。荻生徂徠は, この事件を, 私論では忠義, 公論では罪人とみて, 「もし私論をもって公論を害せば」今後「天下の法は立つべからず」としてその義人, 義士論を批判した。幕府もこの意見に従い, 浪士らは, 翌 16 年 2 月 2 日, 切腹し, 泉岳寺内の旧主の墓側に葬られた。赤穂事件はこれによって落着したが, これら浪士を義士とする社会の各層, とりわけ庶民の人情に訴えたところは大きく, この事件を題材とした脚本, 小説の類はその後数多く作られ, 「忠臣蔵」として民衆に愛好されて今日にいたっている。